



伊藤 享佑
市政クラブ

避難行動要支援者に対する具体的な取組

問 避難行動要支援者個別支援計画の作成状況について伺う。

答 令和5年9月1日時点の計画作成者は376名であり、避難行動要支援者名簿にある人数の14・5%である。

問 災害時の移送手段について伺う。

答 市内の民間タクシー事業者だけでなく、近隣市町の介護タクシー事業者との連携も含め、庁内で協議を開始している。

重層的支援体制について

問 市の取組について伺う。

答 4年10月より市役所1階に福祉総合相談室を設置し、福祉の複合的な課題を抱えた方には、関連機関と連携

して支援を実施している。

問 介護職員の人材不足が全国的な課題だが蒲郡市ではどうか。

答 研修の受講負担削減のため、昨年度より受講場所に三河会場が追加され、オンライン受講も導入されている。

運動部活動の地域移行について

問 部活動が地域移行した際、参加に一定の金銭負担が生じる懸念について家庭への支援策は検討しているか。

答 現時点で部活動の地域移行後の形態が定まっていないため、今後の国の動向も踏まえて検討していく。



市役所1階の福祉総合相談室



竹内 滋泰
市政クラブ

蒲郡市東港地区まちづくりについて

問 蒲郡駅北地区優良建築物等整備事業の進捗状況と予定を伺う。

答 令和3年度に調査設計、4年度から補償及び一部施設解体、5から6年度に既存建築物の除去、7年度から建築工事着手、9年度に完了を予定している。

問 蒲郡駅周辺市街地エリアの取組を伺う。

答 公共空間活用の例として市道駅南1号線で、歩行者利便増進道路、「ほこみち制度」

により社会実験を取り入れ可能性を検討する。

問 竹島水族館のコンセッション方式を伺う。

答 当該方式の採用により公費を使わず、民間事業者の投資で竹島水族館の改善、周りの土地の活用がされ、当該地区の魅力向上につ

全日本フリースタイル選手権について

問 蒲郡市での開催と今後の取組を伺う。

答 ラリー競技は、複数の公道を使ったモータースポーツで、現在、実行委員会準備し、官民共創による支援委員会での立ち上げも予定しつつ、市の魅力発信など事業展開していく。



東港地区（同まちづくりビジョン概要版より）



鈴木 基夫
自由クラブ

ゼロ次予防の考え方について

問 歩くことは健康にいいと言われている。市民が意識的に散歩を習慣づける前提として、健康を意識しなくても、自然と歩きたくなるような環境を整えることについての考えを伺う。

答 社会基盤を整備するだけではなく、ゼロ次予防の観点から、自然とまちを歩きたくなるような環境を整えることも重要である。

市民が社会とのつながりを維持向上できる環境づくりや、自然と健康になれる環境づくりを、健康がまごおりながら、総合的に進める必要があると考える。

問 公園が近い高齢者は運動頻度が2倍高いと言われている。用地取得が難しいといった

話もあったが、無償借地公園制度を活用しながら、自然と歩きたくなるようなまちづくりができないか。

答 今後、都市公園を配置すべき適地において、公園整備の手法のひとつとして制度の活用を検討していきたい。

SIB（ソーシャールインパクトボンド）についての考えは。

答 初期投資を民間資金で担い、成果報酬型の事業を実施するSIBは、初期投資に大きな費用を要する予防的な事業において特に効果が期待でき、まちづくり分野での活用も進んでいる。活用について検討していきたい。



双太山公園のウォーキングマップ